

約三億萬圓以上に達する正貨の輸入を見其の動搖を緩和したるものありとは云へ、尙物價は三月を最高として爾後急落の歩調を辿り、十一月末に於ては約三割の低落を來たし、特殊の商品中には五割以上の暴落を見たるもの亦少なからず。

如斯財界の大變動は細民生活に如何なる影響を及ぼしたるか、

第一の影響は、細民の家庭に於ける収入の減少即ち内職の萎縮及一般賃金の下落となりて現れ、次で所得の全損即ち多くの失業者を出して細民の生計をして益々困難に陥らしめ、第二の影響は細民の場所的移動となりて現はれ且一般社會より此階級への落伍者の數を増加せしめて、社會的問題を愈多事ならしむ、而して不況時期の永續する程其の範圍を大にし且其の影響を深刻ならしむるは極めて明白なる所なりとす。

以下内職の萎縮、賃銀の下落、失業の現況細民の移動に付き少しく記述すべし。

第二項 内職の萎縮

細民各世帯の収入に於て内職が重要な位置を占むるは、既に述べたる所なるが、此の内職は場所に依りて大に其の種類を異にし、其の主要なるものは淺草區に於ける鼻緒の製造、下谷區に於ける屑物撰別、本所及深川兩區に於ける輸出向玩具の加工、足袋小鈎襪等を擧ぐるを得べし。

鼻緒の製造。淺草區内の諸事業中にありて最も重要なもの、一と稱せられ、其の生産數は年二億足以上に上り全市生産總數の大部分を占むるものなり、區内には斯業の間屋頗る多く、其の製造又は加工は中流以下の家庭の内職若くは副業として廣く行はれ、間屋との仲繼機關の如きも好く備れり、夫の工賃の如き年數十萬圓に達し尙財界の好況を追ひ、一足當りの工賃の如きも高率を保ち來りしが、三月財界の動亂あるや間もなく鼻緒市況に影響し、價格に於て急激に約三四割の暴落を見たるが爲め一時注文下受殆中絶を來し細民殊に婦人内職者の收入上に一大打撃を與へ、彼等をして非常の苦境に陥れたり、財界動亂の小康と共に工賃の値下ありて其後漸次注文を獲つゝあるも、現に例年多忙の季節に入りしに拘らず、捗々しき恢復の曙光を認め難しと云ふ。

屑物撰別。市内の各戸より出づる屑紙、襪襪、空瓶、明俵古髻又は拔毛等の屑物は、屑拾及屑買の手を経て立ッ場と稱する中間屑問屋に集り更に各専門の屑物問屋に送られ消毒の上此所にて精選せらるゝものなり、其の撰別をなすものを撰り子と稱し、下谷區隣接郡部に於ては紙屑襪襪其他の間屋多きを以て區内其職業に従事する細民婦女子の數も一千五百名を超ゆと云ふ。

好況時にありては製紙、毛織等の事業に於て之等屑物に對する多大の需要を有したるを以て斯界の商況活潑にして従つて撰別も亦極めて多忙にして其工賃の如きも、一日九十錢乃至一圓三十錢

に達し又一般屑物價格は戰前に比すれば二倍乃至三倍に及べり、然るに三月財界の不振と共に屑物需要の激減を來し其價格の如きも急轉直下最高値の平均三分の一に下落を見たり、されば屑物取引は一時殆ど中止となりて撰り子の職業亦中斷を來したり、現在に於ては斯業者の多くは業務を閉止せざるの範圍に於て營業を繼續し其恢復を觀望しつゝあるの状態なるを以て、之等の職業に關係ある細民の收入上の打撃は甚大なるものあり、今撰り子の工賃低落の狀況を示せば次の如し。

最 高	大正九年		
	三月	同九年 十月	同九年 十二月
最 低	一・三〇	九〇	六〇
平 均	一・一〇	七五	五〇

輸出向玩具の加工。戰時中獨逸製品に代りて世界的に其販路を廣め大正八年度一千二百九十萬に達する巨額の輸出をなしつゝありたる諸玩具類は、大正八年度下期より需要先諸國の財界の事情及銀塊相場の暴落爲替關係の不圓滑歐米品の出廻り等に基き漸次頹勢に向ひつゝありしが、本年三月我財界に激變起りてより其餘波を受けて價格不安定を來し延て注文殆ど絶し、爲に之が加工の下受をなして工賃を得つゝありたる細民家庭には其内職の範圍廣きだけ一般的の打撃を蒙らしめ

たり、此の狀態は現に引續き繼續し、彼等は止むを得ず内地向玩具、熨斗折、荷札、靴下、手套かがり等の職業に轉ぜしとは云へ、何れも注文數量に於て前者に比すべくも非らざるを以て、斯業の衰勢は細民の内職に於て重大の影響を及ぼしたり。

前記の内職の外、造花、押繪、編物、毛織物、莫大小のかゝり、スリッパ製作加工、封筒張り、袋張り、風船、麻裏付、足袋小鈎簪、等の諸内職は恐慌以來其の恢復に遲速こそありたれ孰れも多小の打撃を蒙らざるものなく、或は工賃の値下、或は注文の中絶又は縮少となりて、細民の生計に及ぼしたる影響の尠なからざるものあるを認む。

第三項 勞銀の減少並賃金の下落

東京商業會議所の調査に基き、細民に關係多き左記八種の職業を選び、本年三月以降市中一般の賃金騰落の跡を尋ねるに、

職 業	大正八年三月 の普通賃金	同九年三月 の普通賃金	同 六 月 の普通賃金	同 九 月 の普通賃金
日 雇 人 夫	一・二〇	二・〇五	二・〇五	二・〇一
鍛 冶 職	一・一〇	一・三二	一・四四	一・八四
鑄 物 職	一・〇〇	一・二〇	一・二〇	一・五〇

疊刺職	一・二〇	二・六〇	二・五〇	二・五〇
左官職	二・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・二〇
大工職	一・六〇	二・七〇	三・〇〇	三・〇〇
鋸職	二・〇〇	三・五〇	二・五〇	二・五〇
植木職	一・二〇	二・三〇	二・三〇	二・五〇
平均	一・四一	二・三三	二・二四	二・三八

右に依れば一般市中の賃金は、前記の職業にありては財界の動搖に拘らず何等低落を見ず却て昂騰の氣勢あり、尙本調査の際諸會社、工場に就きて其の工賃を調査したる回答も亦略之と同様なりき。然れ共如斯は將して下層階級者の勞働賃金の内容の真相を示すもの哉否必ずしも然らず、少くとも細民間に在りては不況の影響は甚大なるものありて表面の勞銀工賃の低落は兎に角實収入の減少著しきものあるを認めざるを得ず、以下勞銀及工賃の實狀に付き記述の便宜上自由勞働者、工場勞働者、及其他的職業に従事するもの、三者に分ち其の狀況を概説すべし。

自由勞働者の勞銀の減少。自由勞働者は主として屋外の勞役に従事するものにして、日雇人夫及各種普通人夫を含む、市内に於ける其の總數は約三萬と稱せられ、深川區富川町及本所區花町は

其の需給の中心地にして毎朝職を求めて蟻集するもの凡六千人に達す。

而して財界の好況時たる本年二、三月と十月末に於ける普通人夫の實収入を比較すれば左の如し

職業の種類	収入減少の割合		
	三月に於ける 一日平均収入	十月末に於ける 一日平均収入	
小揚人夫	四・三〇	二・三〇	四・六
石炭人夫	四・九〇	二・五〇	四・八
貨物人夫	四・三〇	二・四〇	四・四
會社人夫	二・六〇	一・八〇	三・一
平均	四・〇二	二・二五	四・二

即ち其の實収入に於て約四割二分の減少を來せり、而して石炭其の他貨物の小揚、船積、運搬に従事する勞働者は彼等の間にありては強健を誇る者共にして、財界活躍の當時は日收七圓以上に達する者多く、然かも需用者は尙勞力の不足を訴へつゝありしものなり、然るに不況時に入るや一般貨物の荷動き一時中絶の狀態となり、勞力の需要激減の悲境に會し爲に鑛山方面への轉業者を出したる程なりしが、爾後財界の平靜に伴ひ需要恢復の期運に向ひ來れるも既に其の収入に於ては右の如き著しき低下を來せる也。次に日雇人夫にありては其の最低勞銀八十五錢より六十五

錢に低落し二割三分の低下を見たり、而して如斯勞銀に満足せざるべからざる劣弱なる労働者の減收の苦痛は強健にして收入多き労働者の夫れに比すれば誠に同情に價するものありとす。

工場労働者の實收の減少。市内に於ける工業にして著しく恐慌の影響を受けたるものは、機械器具、金屬工業、化學工業、纖維工業殊に莫大小工業及皮革工業等重なるものなるが特殊のものを除き一般に多少の影響を蒙らざるはなし、之等諸工場にありては戰時中永く職工の缺乏に苦しむたると、近年労働問題の甚しきとに鑑み、不況に際し多く左記の豫定方針を取りたり。

- 一、既定の工賃を値下せずして實支出を最小限度に止むること
- 二、止むを得ざる場合は不熟練工を淘汰し、熟練工を保持すること
- 三、一時に多數の解雇者を出さず種々の口實の下に數回に分ち之を行ふか若くは職工をして自決せしむる手段を取ること

打撃の甚しき工場に於ては其の實施方法として、先繰業時間の短縮に出て割増金、特別手當及賞與等は一切給與を廢止したるもの多く、七月中本所區のみに於ける調査に依るも、工場法の適用を受ける工場にして二時間以内の繰業短縮工場數一九、四時間以内二七、六時間以内一四三計一八九工場の多數に達したるに見るも、之等工場に労働する多數職工の工賃は表面上の賃金額は變更な

くして實收に於て二割乃至六割の減少を來せるもの尠なからざるを知るに足る。

其の他の職業の收入の減少。諸行商、縁日商、屑拾、人力車夫、船乗等の職業に付て調査するに、諸行商に在りては夏期以來漸次賣行を減じ來りし如く、一縁日商の談に依れば本年三月以前は一、日六圓以上の賣上を困難とせざりしも、六七月以降は相當努力をなし漸く半額の賣上をなすの狀態にして、純益の如きも凡六割の減少を來したりと。屑拾の如きも好況時に於ては小兒にして六、七十錢の收入容易なりしに財界の不況後は屑價の暴落の爲に終日勞して僅に七、八十錢内外の收入を得るに過ぎざるに到れり。人力車夫にありても月を追ふて其の收入を減じつゝあるが如く、此の狀態は下町方面殊に遊廓地附近に於て著しく爲に漸次轉業者を生ずるに至れり。解業の打撃に伴ふ懸船に因る船乗即ち船頭の收入の激減は殊に著しきものにして解問屋は現に彼等の生計の不足額を貸與しつゝあるの現況なり。

大體より之を觀察するに、財界の激變より來りし惡影響は下町に於ける細民の生活に速に表現し、山手に於ては遂に後れ又打撃の程度も一般に下町に於ては山手の細民に優れるものゝ如し。

第四項 失業

細民階級の失業者の實數は之を知る事頗る難事なるも、先づ本所及深川に於ける自由労働者の狀

態より觀察するに彼等の間に財界の波瀾に基く失業者の頻出を惹起したるは四、五月に始まり其後小康を保ち稍常態に復するの模様ありしも、九月以降著しく惡化し來り、十一月に於ては富川町花町等に職を求めて集まる六千五百人内外の勞働者中百を超ゆる勞力紹介者の手を経て漸く其の日の仕事を求め得るもの五六千人にして、残りの五百人内外の勞働者は、日々就業の途なくして徒に自棄の日を送らざるべからざるの悲境にありと云ふ。

次に各種職工の失業状態を見るに、市内に限る統計を得ざりしも、警視廳管下に於て工場法の適用を受ける工場に就き同應の爲したる本年六月以降の調査は左記の數字を示せり。

	總雇入數 解雇數		同上の差 (失業數)		備 考
	總雇入數	解雇數	同上の差 (失業數)	同上の差 (失業數)	
六 月	九、九二四	一、二七〇	二、七七八	三、八	〔職工を解雇し休業したる工場數 本月以前より休業中の工場數〕
七 月	八、一〇二	一、三二五	五、一七三	八、三	
八 月	一〇、二七九	一、三六五	二、三五六	一、八	
九 月	一、二二六	一、二二六	一四一	一、一	
十 月	一〇、五五四	一〇、九七〇	四一六	七、六	
十一 月	九、二一八	一〇、七二一	一、五〇三	六、八	

十二月 六、六六一 九、五八〇 二、九一九 同 同 一二四
八〇

計 六、六六一 八、二一五〇 一、五二八六 〔解雇數の内、製糸女工の切換期
歸郷者一、九四〇を含む〕

而して以上總雇入數と解雇數との差は、其の月に於て失業状態に在りと認むべきものにして、合計一五、二八六名に達せり。

基礎の多少確固なる工場にして尙斯の如し、されば前記以外工場法の適用を受けざる小工場又は家内工業等の蒙りたる打撃に稽ふるときは、之等失業者の數は失業期間の長短は兎に角、事實上非常の數に達すべき事を窺知し得べし、されど右の數を以て細民の間に於ける職工失業者數を率せんとするは推論の當を得ざる觀あるも、尙頭初の失業者が未熟練工を主とする點に想到するとき、工場勞働に従事する細民の失業状態の一面を推測するの資料とするに足るものと云ふべし。

第五項 細民の移動

財界恐慌の反動時期に際し細民は其の所得の方面にありては、内職に於ても勞銀工賃に於ても亦職業上に於ても一般的に打撃を蒙りたる事前述の如くなるが、加ふる其の支出の方面に於て日要必需品が卸價格の低落したる割合に小賣値段の低下を見ざる關係上、彼等の收支に於て權衡を失

すものあるに到りし事實は、他面勞力需要の減少及失業と關聯し相踵て細民の移動を惹起したるが如し。

東京市教育課の調査したる所に據り、市内細民兒童の教育機關たる特殊小學校に於ける在學兒童の、經濟界不振に基因する退學者及休學者數を表示すれば左の如し。

學校所在區名	學校名	生徒總數	財界不況の理由に依る			生徒總數に對する割合
			休學者	退學者	計	
芝	芝浦	五〇一	三八	三	四一	八・〇
麻布	經江	五五七	一八	四〇	五八	一〇・四
四谷	歐橋	五八五	二四	二	二六	四・四
小石川	林町	八〇〇	一	四	五	六・六
下谷	萬年	九三二	三二	三一	六三	六・八
淺草	玉姬	一、二三〇	二九	一三	四二	三・四
本所	三笠、菊川、太平	二、二六三	五五	一〇	六五	二・八
深川	猿江	一、六三一	三三	六六	九八	六・〇

計

八五九九

二二九

一六九

三九八

四・六

即ち生徒全數の四分六厘は財界恐慌の影響を蒙りたるものにして、此の割合は今後に於ても増加すべきものと看做さるべからず、而して休退學は兒童家庭の收入減少の直接結果にして、又其の内退學者（一・九％）の多くは父兄の職業を求めて移動するに伴ひ其の居所を變動したるものと云ふに徴し財界不況に基く細民移動の傾向は明にして、之等家庭を形成せる細民にして尙斯の如しとせば不定居的細民の移動の激しかるべきは之を窺知するに難からずと云ふべし。

附記

尙同課の調査したる所に依れば、並間就學の暇なき兒童を教育する市内各尋常夜學校にありては本年五月より九月に至る五箇月間に於て、財界不況の理由に依り休學したる兒童二七二名、退學五〇七名にして此の外夜間教育を受けんため普通小學校又は其の他より轉校し來りたる新規入學者四七八名あり、而して其の生徒全數に對する割合を示せば次の如し。

學校數	生徒總數	新規入學者	休學者	退學者	計	總數に對する割合
四二	七六八九	四七八	二七二	五〇七	一、二五七	一六・三
之を一般市立小學校の狀態と比較するに						
生徒總數	休學者	退學者	計	總數に對する割合		
二二八、七五六	一三九	五五二	六九一	三		

即ち一般普通小學校にありては財界不振の影響を蒙り休退學したる兒童千人に付き三八の割合なるに比し、尋常夜學校に於ては百〇一人又特殊小學校にありては四六名の多數なることを示せり。

次に自由労働者に在りては本年五、六月以降勞力需要の衰へたる爲め職を求めて各地へ移動するものを生じたり、其の主なるものを挙げれば四月に於て樺太及尼港へ百名、五月に入り各鑛山方面信州に於ける水電工事等へ三百名、六月下旬神奈川縣下へ三百名、秋田山形縣下へ百五十名、七月には北海道へ約百名の移動を見たりと云ふ。

如斯にして細民間に於ては生活の脅威に基く居住の移動惹起せられ不安の間に浮草の如く轉々するものを生ずると共に、一面細民外の階級よりは經濟的傷痕を蒙りたる落伍者の轉入を繁くすべきは日清日露戰役後の事例に徴し疑ふべからざる所なるを以て、將來不況時期の永續に従ひ細民救済に關する社會事業の責務の増大となるべきは言を俟たざる所なりとす。

東京市内の細民に關する調査 畢

大正十年三月

東京市社會局

(非賣品)

15/

東京製本会 印刷